

学習室 1（自閉・情緒学級）生活単元学習指導案

1 単元名 「目標達成のために何を努力すればいいか考えよう」

2 本 時 平成30年 12月 19日（水） 第4校時 学習室1（自閉・情緒学級）2年生（2名）

3 本時の指導観

本時までには生徒が将来就きたい職業や中学校を卒業したあとにどのような進路に進みたいかについてパソコンなどで情報を集めたり、話し合ったりしている。Tさんは就きたい職業が決まっているが、Sさんにおいてはまだ将来の仕事までは考えることができていないため、中学校卒業後の進路について一緒に考えた。Tさんは場面緘黙があるため、前時に目標まで書いている。

そこで本時では、就きたい職業や中学校卒業後の進路を獲得するためには、どのような努力しないといけないのかを考え、行動に移すことができるようにする。そのために、本時の授業の中で、努力という言葉の意味から考える。そして自身の目標を明確にし、自身で考える時間を設け、目標達成に向けての努力要素を書かせる。最後に教室に掲示していつでも目に入るようにする。

4 主 眼

今回の学習を通して、今後の1年間でどのような努力すれば目標達成できるか自分で考え、行動に移すことができる。

5 どのような思考ツールを活用して、生徒の考えを広げたり深めたりするかの工夫点（本年度の重点項目）

- ・イメージマップを用いて、今後の1年間の目標とそれ達成するために必要な努力要素を書かせる。
- ・最後にピラミッドチャートを用いて、目標を達成するために努力することを段階的に書かせ、何から努力し始めるべきか一目でわかるようにする。

6 準 備 学習プリント3枚、手本となるプリント

7 展 開 （Sさんは基本この流れで進めますが、Tさんはできる限り同じように進めます。）

段階	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点(方法)
つかむ	1 (1) 前回の話をした内容を振り返る	○どのような目標を立てたのか発問する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">めあて：目標達成のために何を努力すればいいか考えよう</div> <p>(2) 「努力」とはどういう意味か考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 努力：ある目標のために力を尽くして励むこと 外的な誘因よりも意志または意図によって維持される心的、身体的な活動 簡単に言うと…目標を達成するために一生懸命力を尽くすこと </div> <p>◎努力をすることで夢が叶いやすい、就きたい職業につきやすい。→しないよりもした方が良い。</p>	○考えることが困難な場合には辞書やインターネットを活用させる。	
さぐる	2 (1) 学習プリントに今後の1年間の目標（努力すること）を書かせる	○イメージが思い浮かばない時に、手本となるプリントを提示する。	
深める	(2) イメージマップを用いて、今後の1年間の目標をとそれを達成するために必要な努力要素を書かせる。 (3) 書き込んだ内容を発表する。	○生徒が思いのままかくことができるように、声かけをする。 ○前に立って発表ができないときは、その場でみんなにプリントが見えるように発表させる。	
まとめる	3 (1) イメージマップを元に、今後の1年間努力することをピラミッドチャートに書き目標達成までの努力点を段階的に書く。 (2) 書いた内容を発表する。		
	4 (1) 本時の振り返りをし、教室にピラミッドチャートに書いた努力目標を掲示する。	○本時の学習で1年間の努力目標をいつでも見ることができるところに掲示する。	・支援教材を使ったときと使わないときの生徒の反応

【授業の実際】

○つかむ段階について（既習事項とのズレ・隔たりから内面に生じた問い・課題を設定する場面）

生徒は前時までには自分の将来就きたい仕事をインターネットで調べ、それをもとに今後の1年間の目標を設定した。そこで本時では思考ツール【イメージマップ】を活用して、目標を達成するための自己の課題を書き、自己の課題を段階的に【ピラミッドチャート】に書き表し、行動に移すことをねらいとした。つかむ段階では、既習事項の確認をし、努力とはどういう意味か、努力とは何のためにするのか考えた。そこで、努力とは目標を達成するために一生懸命力を尽くすこと、そして努力をすることで夢が叶いやすくなるということを確認した。そして、自分の今後の1年間の目標を【イメージマップ】に書かせた。

○さぐる～深める段階について（思考ツールを活用して自己内対話をする場面）

さぐる段階では、今後の1年間の目標を達成するための自己の課題を考え、【イメージマップ】に書く場面を設定した。最初の2、3分は生徒が一人で考え、書くことができるか様子を観察した。なかなか書くことができない生徒がいたため、生徒が努力する必要がある項目（自己の課題）をまとめたプリント[資料1]を提示し、それを1つの参考にさせた。それを提示したことで自己の課題を改めて再確認し、文字で書き表すことができた。



深める段階では、【イメージマップ】にまとめた自己の課題をさらに【ピラミッドチャート】を用い、達成し

やすい自己の課題を下段から順番に書き表しやすいうにした。そこで、生徒が自分自身と向き合う場を設けた。生徒自身は「どれが達成しやすいかな」と自分と向き合い、段階的に自己の課題を評価することができた。

○まとめる段階について

まとめる段階では、本時の活動で作成した【ピラミッドチャート】を用いて振り返りを行い、今の自分の状況の把握と、これからどんな努力をする必要があるか再度確認した。生徒は授業中には発表ができなかったが、授業後に「高校に受かるために頑張ります」と強い意志を示してくれた。授業の最後に教室の入り口に【ピラミッドチャート】を掲示し、毎朝自己の課題を確認するように伝えた。



【授業の考察】

本時の授業を通して、目標を達成するための自己の課題を自分で見つけることをねらいとしたが、なかなか自分で考えて書かせることができなかった。その原因として日頃の学校生活の中で困り感をあまり感じていないことが考えられる。日頃から細かく声かけしたりSSTを取り組ませたりする必要があると感じた。しかし、本時の学習態度はとても良かったと思う。[資料1]のような資料を準備したことで、スムーズに授業も進み、生徒自身も意欲的に取り組んでいた。

【成果と課題】（授業整理会およびチェックシートから明らかになったこと）

（成果）☆今回の授業を通して、自己の課題を見つけ、向き合い、1年間の目標を立てることが出来た。また、毎日その課題を確認することで、学校での授業態度や取り組む姿勢がよくなった。

☆授業後も毎朝、学習室に来て最初にピラミッドチャートを見て、自己の課題を確認することが出来ている。

（課題）★指導案の中では、生徒が発表する場を設定していたが、実際には生徒が発表することに恥ずかしさや怖さを感じていたため、書いた内容を見せる程度の交流しかなかった。これからの授業を通して生徒が発表しやすくなるための方法や取組みを考えていく必要がある。